

## 第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成23年9月9日(金) 5校時  
児 童 5年2組 男20名 女19名 計39名  
指導者 盛岡市立山岸小学校 教諭 柳原 政輝  
場 所 盛岡市立山岸小学校 5年2組教室

### 1 単元名 食料生産を支える人々 「これからの食料生産」

#### 2 単元について

##### (1) 本単元の位置づけ

本小単元は、学習指導要領第5学年の内容(2)ア「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること」を受けて設定する。

前単元「わたしたちのくらしと国土」で、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活の様子について学習してきた。そこでは、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土、日本の気候の特色を扱ってきた。自然条件に特色のある地域としては、暖地の沖縄県、低地の新潟県白根を取り上げることで、自然環境と人々の生活や産業との関わり、そこに暮らす人々の工夫や願いを考えることができた。また、「食料生産を支える人々」の中では、稲作、水産業について扱い、日本の食料生産の特色や働く人の工夫や努力、そして課題等について考えてきており、食料生産について関心を高めてきた。

そこで本単元では、日本の食料生産の現状や課題について調べていく。統計資料や写真資料などを活用しながら調べることを通し、食料生産と自然環境のかかわりについて理解できるようにするとともに、世界の食料生産の様子や食料確保のための課題と工夫について考えさせていきたい。さらに、食料確保の問題について、これからどのような工夫ができるか考えさせ、学習の成果を進んで生活に生かそうとする態度を育てていきたい。

##### (2) 教材について

ここでは食料自給率を、「食料全体のうち、どのくらい日本国内でつくっているかを示す割合」とする(農林水産省ホームページより)。農林水産省の統計によると、日本の食料自給率は、1965年時点で73%あったものが、現在は約40%(カロリーベース)とさらに下降傾向であり、約60%を外国からの輸入に頼っているのが現状である。これは先進国の中で最低の水準であり、特に穀物の自給率については、米を除いて小麦、大豆共に低い水準にある。要因の一つとしては、食生活の欧米化が進み、国内で多く生産することができる米の消費量が減り、かわりに畜産物や油脂類を多く摂るようになったことが考えられている。また、国産と外国産の食料の値段の差も大きく、特に肉類や魚・貝類で顕著であり、食料輸入額も年々増加傾向にある。食料自給率が低いことは、環境や他国との関係等の面から、国にとって大きな問題であり、政財界が一体となって食料自給率アップを図る国民運動「FOOD ACTION NIPPON」に取り組んでいる。

このような状況の中で、食料の安定的な確保のために、子どもたちが自分たちの問題として、広い視野で考えていけるよう指導していくことが必要であるといえる。

##### (3) 児童の実態と指導観

子どもたちは、社会科の学習に意欲をもって取り組んできていて、我が国の食料生産の様子についても関心を強くもつようになってきている。子どもたちにとって、食料そのものについては比較的身近に考えることができるものであると言える。しかしながら、その食料がどこでつくられたものなのか、また日本の食料自給率の現状についての知識や意識の個人差は大きいといえる。

そこで、指導に当たっては、子どもたちが興味、関心を高めながら主体的に学習に取り組む単元のねらいに迫ることができるように、意図的、計画的な支援を行っていく。グラフ「各国の食料自給率」と国民運動「FOOD ACTION NIPPON」との対比から、学習問題を内在化させるとともに、学習の到達点への見通しをもたせ、追究への意欲をもたせたい。これまでの農業や水産業の学習で扱った問題点を大切にすることで、生活経験や知識などと合わせて予想の根拠にしたり、個々の追究活動に生かしたりできるようにしたい。

また、個々の自己活動で得た学びの成果を、全体の学び合いの中で交流させることにより、個のよさを生かしながら学級全体で主体的な課題解決が図られるようにしていきたい。その際、効果的な資料の提示や資料に意味をもたせるような発問の工夫を行っていく。

そして、単元の最後には、学習したことから深まった自分の考えを表現して、交流し

合う場面を設定する。言語活動の充実を図ることで、子どもたちの意思決定の力を高め、いくとともに、学びの成果を自らの生活にも生かそうとする態度を育てていきたい。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

日本の食料生産が抱えている問題に関心をもち、現状や課題について統計資料や写真資料等を用いて調べることを通して、食料確保の大切さを理解し、今後の改善点や自分の生活に生かしていく点について自分の考えをもつことができる。

#### (2) 単元の評価規準

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食料生産の現状に関心をもち、その問題点について進んで調べている。</li> <li>食料の安定確保のために、学習したことをもとに、その対策や今後の食料生産の在り方について考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフ等から読み取ったことをもとに、日本の食料生産の問題を考えている。</li> <li>学習したことをもとに、これからの食料生産のあり方と自分の関わり方について考え、新聞に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸資料から、日本の食料生産の現状や問題点を適切に読み取っている。</li> <li>新聞作成等の目的から資料を収集し、適切に読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食料自給率が低いことを理解し、食料自給率を上げていく取り組みの必要性を具体的にとらえている。</li> <li>食料生産には、環境保全や外国との関係など、さまざまな問題があることを理解している。</li> </ul>

### 4 単元の指導計画

#### (1) 単元の指導計画 (5 時間)

次	時	学習内容	ねらい	展開の概要	主な資料
第一 次	1  本 時	日本の食料生産の現状と問題点	諸外国との関係や環境、資源等の面から我が国の食料生産の現状について調べ、日本の食料自給率が低いことによる問題点をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフ「各国の食料自給率」と「FOOD ACTION NIPPON」の取り組みから、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">国が食料自給率アップに取り組んでいるのはなぜだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から、食料自給率アップに取り組んでいる理由を調べる。</li> <li>調べたことを出し合い、食料自給率が低いことによる問題点についてまとめ、自分の考えを書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフ「各国の食料自給率」</li> <li>TVCM、ポスター「FOOD ACTION NIPPON」</li> <li>農政事務所の方のお話</li> </ul>
		食料の安定した確保	食料を安定的に確保するために、どのような工夫が必要か考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフ「世界の人口の変化」「世界の耕地面積の変化」を見て、気づいたことを発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">食料を安定して確保するためには、どんな工夫をすればよいのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から、食料の安定確保のために考えられる工夫について調べる。</li> <li>食料の安定確保のために考えられる工夫について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフ「世界の人口の変化」「世界の耕地面積の変化」</li> </ul>
第三 次	3 ・ 4	はり合わせ新聞をつくらう	「食料生産を支える人々」の学習を通して大切だと感じたことについて、表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞のテーマを決める。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">はり合わせ新聞をつくらう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで分担をする。</li> <li>書き上がった記事を互いに読み合い、発表の準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童収集資料</li> </ul>
		新聞を発表し合い、自分の考えをまとめよう	これからの食料生産について、自分の考えを表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に発表する。</li> <li>これからの食料生産について、自分の考えを文章でノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童作成新聞</li> </ul>

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

諸外国との関係や環境、資源等の面から我が国の食料生産の現状について調べ、日本の食料自給率が低いことによる問題点をとらえることができる。

### (2) 評価規準

評価規準	おおむね満足 (B)	未達成の場合の手だて
日本の食料自給率を上げていく必要性についてとらえている。  【知識・理解】	日本の食料自給率が低いことによる問題点を諸資料からとらえ、「安全性」「資源」「環境」「他国との関係」等についてふれながら、自分なりの言葉で書きまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書のキーワードをもとにふり返らせる。</li> <li>いくつかの内容から、選択させて書かせる。</li> <li>他の児童の発表内容や黒板に書きまとめたものを参考にさせる。</li> </ul>

### (3) 展開

階	学 習 活 動	時 間	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)	資料等
問 題 の 把 握	1 グラフ「各国の食料自給率」を見て、気づいたことを話し合う。  2 国民運動について知る。 (1) 「FOOD ACTION NIPPON」の取り組みについて知る。 (2) 一人一人の疑問や学習してみたいことを発表したりまとめたりしながら、本時の学習問題を設定する。  国が食料自給率アップに取り組んでいるのはなぜだろう。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食料自給率」について確認をする。</li> <li>他国と比較して、日本の自給率は低いこと、多くを輸入に頼っている現状をおさえる。</li> <li>ポスターの「食料自給率」という言葉をマスキングして提示し、多くの人が一体となって取り組んでいることをとらえさせ、その驚きから問題意識を高める。</li> <li>「みんなで」がどのような人たちを指すのか、具体的に押さえる。</li> <li>児童に学習の見通しをもたせ、到達点を意識させるために、まとめの文形（多くの人々が食料自給率アップに取り組んでいるのは ～ から）を本時のゴールとして示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフ「各国の食料自給率」</li> <li>TVCM</li> <li>ポスター「FOOD ACTION NIPPON」</li> </ul>
問 題 の 追 究	3 食料自給率アップに取り組む必要性について予想し話し合う。 (1) 予想をノートに書く。 (2) 予想を発表し合う。 〔予想される内容〕 ・外国産食料の安全性が不安。 ・相手国で食料がとれないと困る。 ・相手国の環境をこわしている。 ・食料生産に関わる人が減っている。  4 資料をもとに食料自給率アップに取り組む必要性について調べる。 (1) 教科書から調べる。 (2) 新聞記事、写真資料等から調べる。 ①輸入食料の安全性 ②相手国の影響 ③相手国の環境破壊  5 岩手農政事務所の人（阿部 肇さん）の話から、食料自給率アップの必要性についてとらえる。	7  18  4	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の予想について、根拠を明確にしながらか発表させるようにする。</li> <li>机間指導により子どもたちの考えを把握し、意図的な指名など、以後の活動に生かしていく。</li> <li>出された予想は板書で整理していく。</li> <li>予想が難しい子どもには、輸入に頼りすぎることによる問題点を想起させるなど助言を与えていく。</li> <li>各自で調べる時間を確保する。</li> <li>調べる項目を確かめ、関連のある内容に着目させていく。</li> <li>過去に外国産食料の安全性が危ぶまれた事実を押さえる。</li> <li>天候等の影響、相手国との関係が食料の輸入には関連してくることをおさえる。</li> <li>エビの養殖のためにマングローブの林を切っている事実をとらえさせる。</li> <li>食料自給率の低さと、それによる問題点、食料自給率を高める必要性について総括的にとらえさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事「外国産食料の安全性に関する報道」</li> <li>写真資料「えびの養殖池とマングローブ林」</li> <li>えび(実物)</li> <li>農政事務所の方の話 (DVD)</li> </ul>
ま と め	6 本時の学習をふり返り、分かったことと自分の考えをノートに書き、発表し合う。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書や資料をもとに学習問題について振り返らせ、分かったことや自分の考えを書かせる。</li> <li>机間指導を行い、望ましい記述をしている児童を把握し、意図的な指名に生かす。</li> </ul> ◇食料自給率を上げていく取り組みの必要	

発 展	7 次時の学習の方向をつかむ。	性についてとらえている。 【評価 ノート】 ・次時以降の自分たちができることを考えるきっかけとする。	
--------	-----------------	--	--

(4) 板書計画

